

【一声社：移転のお知らせ】新住所↓
〒125-0033 東京都葛飾区東水元 2-13-1
TEL03-6676-2179/FAX03-6326-8150

閑話休題

初スキーであわや遭難①

生まれて初めてスキーに行ったのは、大学1回生の時。「お金もないし、やった事ないから…」と渋るヨネやんを、「大丈夫やって！教えるから！」と半ば強引に誘ったのが、寮の4回生・T先輩。そんなにスキーが好きなんか、と感心したヨネやんだったが、当日集合場所に行ってその理由を納得した。女子寮のRさんとOさんが居たのだ。僕らは、彼女らを誘うエサに過ぎなかった…。

それでも、一面の銀世界を見るだけで興奮し、僕ら初心者コーチしてくれたYさんの教え方がかなり上手で、お昼には少し滑れるようになっていた。誘ったT先輩は？「教えるから！」というのは、自分ではなくYさんで、まあその点嘘ではなかったのだが、彼は僕らをYさんに押し付け、本来の目的である女子達とのスキーを満喫していた訳だが…。

お昼ご飯の時、T先輩が言い出した。「ゴンドラとリフトを乗り継いで、一番上まで行こ！」。初心者のヨネやんは、その意味するところをまだ知らない。微妙な空気が流れ、コーチのYさんが言った。「ヨネらはまだ無理やで。置いていくわけにもいかんし」。T先輩はひるまない。「大丈夫やって！降りて来るうちに上手くなるから！」。

生まれて初めてスキー板をはいて数時間後、ヨネやんはリフトを何度もストップさせながら、八方尾根の一番

上まで来た。

練習していたファミリーコースとは景色が違う、とても寒い。見下ろすと、真逆さまに落ちていく感じ。高所恐怖症のヨネやんは、果たして無事に降りられるのか？ そんな不安を吹き飛ばすようにT先輩が言った。

「ほな、先に降りてるから。ゆっくり来たらええでえ！」——自分が女子と楽しみたいだけやん。

取り残された初心者4人組。最初はYさんが付きっきりだった。「滑っては倒れ」を繰り返しながら少しずつ降りていた。人の良いYさんも、数時間後には腹が立ったのだろう。初心者をおこのツアーに誘ったのも、いきなり頂上まで連れてきたのもT先輩。それなのに彼は喜色満面で女子とスキーを楽しみ、自分は滑る楽しみさえ味わえない。そんな空気を察したヨネやんらはYさんに言った。

「もう大丈夫ですよ。自分で降りられます」。「そうか？悪いなあ、ほな先に行くでえ。氣い付けてな」。

そこからさらに悪戦苦闘は続く。孤独感と疲労に苛まれるヨネやん達に、天使の声が聞こえた。

「大丈夫かあ〜！」。D先輩が下から登って来たのだ。人柄の良い1つ上の寮の先輩。この時点で既に夕方近く。果たしてこの後、ヨネやんらの運命やいかに？ (次号に続く)

春の保育書&小道具フェア開催中！

◎紙とえんぴつでおはなし

◎“紙とえんぴつでおはなし”

小道具セット

好評発売中！